

大阪教育大学 関西大学 近畿大学

# 大阪教育大学 連合教職大学院

The United Graduate School of Professional Teacher Education

子どもの未来を、これからの**教員**を。

EVOLUTION<sup>2024</sup>



2024  
Evolution

## 2024年教職大学院が進化します

大阪教育大学 学長 岡本 幾子

大阪教育大学は、教員伝習所として創設以来、150年にわたり、日本の教育の根幹を支えながら、その発展に貢献してまいりました。とりわけ学校教育分野において、日本を代表する教員養成機関としての役割を果たしてきました。

平成27年4月、次世代の教育を担うリーダーとして資質能力を向上させ、学び続ける教師を養成するため、これまで本学と同様に大阪の教員養成に重要な役割を果たしてきた関西大学及び近畿大学と、国立・私立の垣根を越えて連合し、教職大学院を設置しました。

平成31年4月、知識基盤社会の到来と情報通信技術の急速な発展、社会・経済のグローバル化や少子高齢化の進展など、社会が急激に変化する中、多様化し続ける学校教育の課題に即応できる実践力を身に付けた教師を養成することを目的として、大学院段階での教員養成機能を教育学研究科から連合教職実践研究科(連合教職大学院)に移行しました。

そして、令和4年3月、「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成を先導し、教員養成の在り方自体を変革していくためのけん引役として、文部科学大臣から「教員養成フラッグシップ大学」の指定を受けました。

日本の教育課題が縮図化している大阪において、本学は多様な主体との連携により、教育DXとダイバーシティ教育を重点的に促進するとともに、教員養成フラッグシップ大学構想の実現を通じて日本の未来の教育を創造していくことを目的として、令和6年4月に連合教職大学院を機能強化します。

「より深く!よりスムーズに!より通いやすく!学べる環境」に進化する1専攻4コースの連合教職大学院では、学校や地域等との連携のなかで、教育現場を活性化しつつ自らも成長し続ける、高度で柔軟な実践力を備えた教育人材を養成します。

本学で学ぶことにより、高度な実践力を修得し、学校教育のけん引者として活躍されることを願っています。

## Contents

- 03 教員養成フラッグシップ大学について
- 05 連合教職大学院の概要
- 07 連合教職大学院での学び
- 09 コースの概要
- 15 大阪教育大学連合教職大学院の魅力
- 17 在学院生・修了生からのメッセージ
- 19 教職大学院生の一日
- 23 授業科目一覧(予定)
- 25 就職支援/進路状況
- 26 学費・奨学金
- 27 入試情報
- 28 三つのポリシー
- 29 Access

# 教員養成フラッグシップ大学について

本学は令和4年3月9日に、文部科学大臣から教員養成フラッグシップ大学の指定を受けました。

教員養成フラッグシップ大学とは、「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成を先導し、教員養成の在り方自体を変革していくためのけん引役としての役割を果たす大学のことであり、全国15大学の申請に基づき、本学を含む4大学が指定されました。

## 大阪教育大学のテーマ

ダイバーシティ大阪の諸課題に応え、学習者の学びに寄り添う教師の育成  
ー協働・省察を促し、教育DXの推進による先導的・革新的教員養成カリキュラムー

本学は、日本の教育課題が縮図化している大阪において、多様な主体と協働しながら、教員の養成・研修や学校教育の高度化に取り組み、成果事例を日本全国に発信・浸透させることにより、大阪から日本の教育を変えていきます。

教員養成  
フラッグシップ  
大学構想の  
詳細はこちらから



教員養成フラッグシップ大学に求められる

## 3つの役割と本学の取組

本学は、指定大学に求められる以下の3つの役割に対して、特色のある取組を推進します。

### 1 先導的・革新的な 教員養成プログラム・ 教職科目の研究・開発

ダイバーシティ教育を基盤として、「子どもの多様性の理解のもと、学習者を中心とした授業実践力に優れ、個に応じた学習指導と一人ひとりの学びに寄り添う教師」を育成するための教員養成プログラムなどを開発します。

### 3 取組の検証を踏まえた 教職課程に関する 制度の改善への貢献

多様な知的資源を集約することによって、新たな教員養成モデルや教育政策の提言、教職課程の質保証、現代的教育課題の解決に資する対応策の提示を行う「実践的シンクタンク機能」を確立します。

### 2 全国的な教員養成 ネットワークの構築と 成果の展開

教員養成に係る地域連携プラットフォームの拠点として「みらい教育共創館(仮称)」を構築するとともに、教員養成・研修の高度化と効率化を図る「学び続ける教員を支えるプラットフォーム」を構築します。

フラッグシップ大学の指定を受けて

## 共通5領域\*に加えて設定する新たな領域・科目

教員養成フラッグシップ大学の指定を受けたことによる「教職大学院の共通5領域の必修単位数の弾力措置」を活用して、本学のテーマに即した科目の開講を予定しています(計10単位)。

領域	科目名	科目概要
教育DX・STEAM実践に関する領域	教育におけるDXとSTEAMの理論と実践 必修	<ul style="list-style-type: none"> <li>「教育DX・STEAM実践に関する領域」科目</li> <li>みらい教育共創館(仮称)の未来型教室フロアを拠点に、大学教員と先端技術に精通した企業人材、教育委員会指導主事等と協働で実施する。</li> <li>「ICT活用の授業研究」をテーマとし、政策やカリキュラム、実践の最新動向を、諸外国や研究開発学校の事例を例にして理論的実践的に研究した上で、授業者としてのICT活用の資質を実践的に習得する。</li> <li>校種連携や教科横断的な視点から実習校での教育に関するテーマを設定し、カリキュラムデザインの具体化に取り組む。</li> </ul>
教育グローバル人材の育成に関する領域	グローバルスタディーズの展開 必修	<ul style="list-style-type: none"> <li>「教育グローバル人材の育成に関する領域」科目</li> <li>異文化理解プログラムやグローバル教育をけん引する教師としての資質やスキル、アセスメント・発信の方法を身に付ける。</li> <li>在外教育施設(日本人学校)との交流により、在外教育施設での教育の意義や役割を理解し、グローバルな考え方や多様な価値観に触れるとともに、海外の子どもに対し、遠隔教育を活用した「令和の日本型学校教育」を学ぶ機会を提供する。</li> </ul>
多職種協働による組織マネジメントに関する領域	多職種協働による組織マネジメント 必修	<ul style="list-style-type: none"> <li>「多職種協働による組織マネジメントに関する領域」科目</li> <li>「チームとしての学校」の考え方を理解した上で、学校現場での協働体制やマネジメント体制、外部との連携方策等の改善策を構築するためのPBL(問題解決型学習)による演習を行う。</li> <li>心理・福祉・保健の専門職等の教育支援人材の育成を目的とする、大学院教育学研究科(修士課程)の授業との合同により、地域の各種の専門家との協働的な演習を行う。</li> </ul>
ダイバーシティの理解に関する領域	社会的包摂に関する実践的研究 インクルーシブ教育の理論と実践 外国にルーツのある子どもの教育Ⅱ 子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践 選択必修	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ダイバーシティの理解に関する領域」科目(2科目4単位選択必修)</li> </ul>

\*教職大学院において共通に開設すべき「教育課程の編成及び実施に関する領域」「教科等の実践的な指導方法に関する領域」「生徒指導及び教育相談に関する領域」「学級経営及び学校経営に関する領域」「学校教育と教員の在り方に関する領域」からなる5領域(計10単位)を設定しており、院生はすべての領域にわたり履修する必要があります。

# 連合教職大学院の概要

## 教職大学院の目的

### 教職生活全体における高度かつ実践的な教員養成のための専門職大学院

近年、教員の養成一採用一研修等を通じて、教員が教職生活全体を通じて職能成長を実現する環境づくりが進められており、教職大学院は高度専門職業人養成に特化した大学院として、全国に設置されています。

### 学部段階の資質能力を基盤に深い教職性と実践的指導力を兼ね備える新人教員を養成

教員養成系大学あるいは一般大学の学部新卒者に、それぞれの特色を生かした資質能力にさらなる教職専門性と学校現場に即応できる実践的指導力を培い、学校の有効な一員となる新人教員を養成します。

### 学校の組織的課題・子どもの教育課題に応じた教育実践力や指導的役割を發揮する現職教員を養成

多様で複雑化する学校の組織的課題や子どもの教育課題を適切にとらえ、それらの課題解決をめざす確かな教育実践の展開に指導的役割を果たすことができる、学校の中核となる教員を養成します。

#### 現代的な教育課題

- 新たな教育課程・授業方法の創出
- 子どもの育ちに関わる課題の解決 (いじめ・不登校・児童虐待等)
- 学習指導要領の改訂に応じた教育活動の展開
- ICTを用いた指導法の充実
- 個々の子どもに応じた指導・支援の充実 など
- 「チーム学校」の実現

#### 求められる教員の資質能力

- 自律的に学ぶ姿勢や意欲
- 現代的な教育課題に対応する力
- 価値を見つけ出す感性や探究心
- 学校内外の組織や専門家とチームで連携・協働する力
- 知識や経験を有機的に結びつけて構造化する力
- 各自治体の教員育成指標で求められる資質能力 など

#### 養成する人材像

- 自ら学び続ける教員
- チームで課題解決をめざす教員
- 教職・教科等の高度な専門的知識や技能を有する教員
- 地域の組織や専門家と連携・協働する教員
- 学級経営・生徒指導・教育相談等を適切に実践できる教員
- 学校経営及び教育行政のリーダー

## 修了要件

専門職学位課程に2年以上在学し、所定の科目を46単位以上修得することを要件としています。

科目名	単位数	内容
研究科共通科目 (共通5領域・フラッグシップ大学特例領域科目)	20	「教育課程の編成及び実施に関する領域」、「教科等の実践的な指導法に関する領域」、「生徒指導及び教育相談に関する領域」、「学級経営及び学校経営に関する領域」、「学校教育と教員の在り方に関する領域」の5領域の科目と、フラッグシップ大学特例領域科目として「教育におけるDXとSTEAMの理論と実践」や、「グローバルスタディーズの展開」などを設定しています。
学校実習科目	10	「基本学校実習Ⅰ・Ⅱ」と「発展課題実習Ⅰ・Ⅱ」(特別支援教育コースについては、「基本学校実習Ⅲ・Ⅳ[特別支援]」と「発展課題実習Ⅲ・Ⅳ[特別支援]」)の計4科目10単位を修得します。
コース必修科目	6	各コースが目標とする資質能力を育成するための科目を設定しています。詳細については、授業科目一覧(スクールリーダーシップコース・援助ニーズ教育実践コース:23ページ、教育実践力コース・特別支援教育コース:24ページ)をご参照ください。
課題研究科目	4	入学時から明確な意図と達成目標を持った研究テーマを設定して、課題解決に向けた実践的探究を進めます。
自由選択科目	6	研究科共通科目・コース科目等から、各コースで定める履修基準に応じて単位を修得します。

## 学位

「教職修士(専門職)」の学位が授与されます。

## 取得できる免許状

取得しようとする免許状の一種免許状を修了年度に有していることが必要です。

- 幼稚園教諭専修免許状
- 小学校教諭専修免許状
- 中学校教諭専修免許状 (国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業、職業指導、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、宗教)
- 高等学校教諭専修免許状 (国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、水産、福祉、商船、職業指導、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、宗教)
- 養護教諭専修免許状
- 特別支援学校教諭専修免許状(※特別支援教育コース所属学生に限る) (視覚障害者・聴覚障害者・知的障害者・肢体不自由者・病弱者)

# 連合教職大学院での学び

## 令和6年度から新しくなる点

### よりスムーズに 学部卒院生に向けて

- 学部と教職大学院が接続する教員養成プログラムを展開します。
- 学部との接続を図るため、柏原キャンパス(昼間)においても「援助ニーズ教育実践コース」を展開します。
- オンラインの活用により、両キャンパスの科目が履修できます。
- 天王寺キャンパス(夜間、土曜)においても修了に必要な科目が履修できます。

### より通いやすく 現職教員院生に向けて

- 現職教員の教科教育や特別支援教育の学びのニーズに応え、多様な育成段階の教員が共に学び合う教育を行うため、教育実践力コース及び特別支援教育コースを天王寺キャンパス(夜間)においても展開します。
- オンラインによる授業を拡充し、現職教員が学びやすい環境を整えます。  
(※長期休業日や土日を利用しての対面授業も取り入れながら、双方向遠隔やオンデマンドなどのオンライン受講での修了を検討しています(学校学習科目等一部の科目を除く。))

## 大学院キャンパスと学校現場をフィールドとした学び

### 理論と実践の往還・融合

自らが設定した課題の解決に向け、授業における理論的な学びと、2年間を通じて実施する学校実習における実践的な学びとの往還を繰り返し、実践課題研究に取り組むことで、教職に求められる実践的指導力を高めていくよう、カリキュラムを構築しています。

### 指導体制

院生には、主指導教員・副指導教員が割り当てられ、研究者教員と実務家教員、教職専門系教員と教科専門系教員といった、複数の視点で指導できる体制を用意しています。



[ 理論と実践の往還・融合 ]

## 授業

### 教職に求められる実践的指導力を向上させるカリキュラム

大阪府・大阪市・堺市の各教育委員会が掲げる教員育成指標と対応させたディプロマ・ポリシー(学位授与方針)を、各コースで設定しています。つまり、学校現場で求められる理論や実践動向を科目の中で体系的に学び、学校実習等でそれを実践しながら、実践的指導力を高めていける環境があるのです。また、全ての院生が共通に履修する研究科共通科目は、研究者教員と実務家教員のタッグによるチームティーチングにより授業を展開し、理論と実践の往還の一助となります。

### すぐれた教員による確かな指導

150名を超える大学教員が全学的な協力体制のもと、大学院生の指導・支援を行います。研究者教員は、それぞれの専門分野の学術研究に関して数多くの業績を有し、中には、学校現場や教育行政との共同プロジェクト等の豊富な経験を有している教員もいます。また、学校や教育行政に長く勤務し、教育課題の解決に尽力してきた実務家教員は、大学院生にとってのよき教職モデルです。これらのすぐれた教員による確かな指導によって、実践力や探究力等を高めていきます。

教員紹介  
についての  
詳細は  
こちらから



## 学校実習

学校実習の主な目的は、学部の教育実習とは異なり、教員免許状を所持する院生が高度な実践力を備え、教職力量を形成・向上させることです。実際の学校教育活動(保育活動)に参画しながら、自ら設定するテーマについて理論と実践の往還、融合を図り、学校園等の諸課題の解決や改善の提案及び幼児・児童・生徒の資質・能力の育成など学校教育に貢献することをめざします。

大学院入学時に学部卒で教員経験の少ない院生も、教員としての基礎的理解をふまえ、自らの実践を省察し、高度化させ、職能の成長をめざします。

時期	科目名	時間数	単位数	実習先
1年次	前期 基本学校実習I 基本学校実習III(特別支援)	60時間以上	2単位	勤務校等での実習：勤務しながら教職大学院で学修する現職教員院生は、原則として自身の勤務校等において学校実習を行います。 配当校での実習：休業制度等を利用し勤務校等を離れ教職大学院で学修する現職教員院生や学部卒等の院生は、原則として配当校で学校実習を行います。 ※現職教員院生(勤務経験3年以上)においては、定められた手続きにより履修免除を願い出、認められた場合は、1年次前期に行われる「基本学校実習I」の履修を免除されます。 ※配当校は、学校実習を受け入れていただける大阪府内の連携協力校から、複数の要件・情報等をもとにマッチングします。
	後期 基本学校実習II 基本学校実習IV(特別支援)	60時間以上	2単位	
2年次	前期 発展課題実習I 発展課題実習III(特別支援)	90時間以上	3単位	※現職教員院生(勤務経験3年以上)においては、定められた手続きにより履修免除を願い出、認められた場合は、1年次前期に行われる「基本学校実習I」の履修を免除されます。 ※配当校は、学校実習を受け入れていただける大阪府内の連携協力校から、複数の要件・情報等をもとにマッチングします。
	後期 発展課題実習II 発展課題実習IV(特別支援)	90時間以上	3単位	

## 実践課題研究

実践課題研究では、1年次からの「学校実習」と関連させ、1年次での学びの成果を整理しながら、実践的な研究課題に対する問題意識とそれに対する取組みをどのように発展させてきたかを省察していきます。そして、それをさらに追究し、どのようなアウトプット(実践課題研究報告書)として仕上げるかに関して、計画を策定し、遂行していきます。

その過程において課題解決のプロセスを R-PDCA サイクルに基づいて自己点検・評価するとともに、学校や教育委員会のスタッフ等とのコミュニケーションの中で相対化し、それらを通じて、自らの実践的な研究課題の解決を学校や地域が抱える教育課題の解決とつなぐ意識を強めていきます。

### 実践課題研究のテーマ例

実践課題研究のテーマ例
「観点別学習状況の評価」の全面実施にむけた実践高等学校における環境整備
小中一貫校におけるキャリア教育推進の実践研究 ーキャリア教育の視点を入れた授業の開発支援を通してー
『知的障がい支援学校における農業学習とキャリア形成の力の把握に関する実践的研究』
通常学級における読み書きで困難を示す児童への正確性及び流暢性に焦点を当てた指導・支援
小・中学校の単元間の系統性を意識した 中学校入門期における指導への提言
力学と熱に対して主体的に学習に取り組む態度の育成と評価

## リフレクション・ミーティング

リフレクション・ミーティング(RM)とは、学校実習で取り組みを振り返る機会や、他者が理解可能なように成果や課題をまとめ発信する場を意味します。RMには下のような種類があります。

名称	実施時期	実習内容
個別RM	随時	・大学院指導教員が実習校園等を訪問し、院生の学修状況を確認しながら指導・助言する。必要に応じて実習校園等の指導者や教職員とも振り返りの機会を設定する。 ・主指導教員が、大学院で個別・ゼミ形式で指導・助言する。
コースRM	8月及び2月	・学校実習の取り組みについて発表し、院生間で相互に交流するとともに、副指導教員や大学院の関係教員から助言を受ける。 ・必要時は、学校園等や教育委員会関係者、修了生等の参加者と交流する。
全体報告会	2～3月	・各コースの代表院生が、学校実習の取り組みに関して発表する。



授業：学習指導の実践的展開



コースRMの様子

# 柏原 キャンパス

昼間開講

キャンパスで授業を履修する日と  
実習校で学校実習を行う日を使いわけながら  
着実に力をつける昼間開講システム

Kashiwara Campus

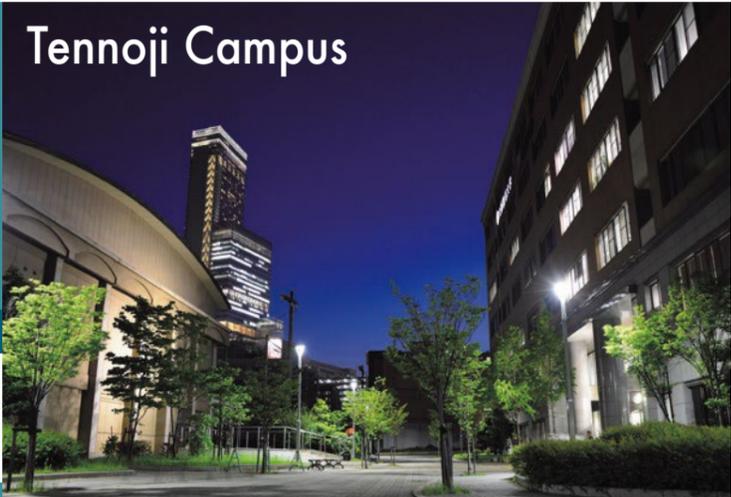


# 天王寺 キャンパス

昼夜間開講

平日の夜間や土曜、夏季休業期間等に授業を履修し、  
平日の日中は実習校で（現職教員は勤務校等で働きながら）  
理論と実践の往還を行える昼夜間開講システム

Tennoji Campus



●柏原キャンパス開講の3コースは、主に平日1～5時限開講です。

1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
8:50 ~ 10:20	10:35 ~ 12:05	12:55 ~ 14:25	14:40 ~ 16:10	16:25 ~ 17:55

●天王寺キャンパス開講の4コースは、主に次のような開講です。

6 時限	7 時限
18:00 ~ 19:30	19:40 ~ 21:10

- 平日6～7時限
- 土曜
- 集中講義（土曜、夏季休業期間の組み合わせなど）

## スクールリーダーシップコース

天王寺

対 象	現職教員等（勤務経験3年以上）（※）
募集人員（目安）	30名
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者、地域住民等と協働し、学校及び地域の新しい教育課題の解決に向けてリーダーシップを発揮できる教員</li> <li>●教員集団をリードし、学校経営における中心的役割を担うことのできる教員</li> </ul>

## 援助ニーズ教育実践コース

柏原 天王寺

対 象	現職教員・学部卒学生等
募集人員（目安）	30名
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多様な援助ニーズに対応するための高度な教育的手法を身に付けた教員</li> <li>●「チーム学校」の考えに基づき、学校園内・外の関係者と協働して教育実践を展開できる教員</li> </ul>

## 教育実践力コース

柏原 天王寺

対 象	現職教員・学部卒学生等
募集人員（目安）	80名
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童・生徒に即した、実践的で高度な学習指導、学習評価を行える能力を身に付けた教員</li> <li>●教員としてのカリキュラム・マネジメントや、教科横断的な視野を持った教科領域の指導、今日的な教育課題に対応した授業開発に、先端的かつ継続的に取り組むことのできる教員</li> </ul>

## 特別支援教育コース

柏原 天王寺

対 象	現職教員・学部卒学生等
募集人員（目安）	10名
養成する人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>●特別な支援を必要とする子ども一人ひとりのニーズに対応した適切な教育支援を行える高度な能力を身に付けた教員</li> <li>●特別支援教育コーディネーターとしての役割を担うことのできる教員</li> </ul>

※「現職教員等」とは学校教育法第1条に規定する幼稚園（幼保連携型・幼稚園型認定こども園を含む）・小学校・中学校・高等学校・義務教育学校・中等教育学校・特別支援学校で常勤（任用の期限がある常勤講師は含まない。）で勤務している方、又は都道府県もしくは市区町村の教育委員会及び国公立の教育センター等において指導主事として勤務している方。ただし、令和6年3月31日以前に退職する予定の方を除きます。

経験年数は、1か月未満の場合は1か月として計算し、入学願書裏面の職歴欄より確認します。休職期間（育児休業、国際派遣等も含む。）は、経験年数に算入しません。

協働力とリーダーシップを育てる

## スクールリーダーシップコース

### 概要

スクールリーダーシップコースは、名実ともに「学び続ける教員」をめざすコースです。事例研究やそれぞれの課題に応じた専門的かつ多元的な学びから、学校経営の中心的役割を担うために必要な実践力を身に付けることができます。現職教員等の学校実習では、勤務先において同僚を巻き込みながら改革へつなげていく実践を通して、「学び続ける教員」としての力量を向上させていきます。

### 履修モデル

(参考) 令和5年度のカリキュラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年次	教育課程編成の今日的課題 生徒指導と教育相談の実践的課題 学校経営と学級経営の理論と実践				カリキュラムマネジメントの理論と実践 学習指導の実践的展開 教育研究方法演習								
	子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践				外国にルーツのある子どもの教育 II								
	スクールリーダーシップの理論と実践				スクールリーダーのマネジメント								
2年次	基本学校実習 I				コースRM				基本学校実習 II				コースRM
	学校安全と危機管理				教師力・学校力・スクールコンプライアンス								全体報告会
	人権教育の課題と実践				エビデンスベースの学校改革								
	学校組織開発				チーム学校の実践的展開								
	発展課題実習 I				コースRM				発展課題実習 II				
実践課題研究 I								実践課題研究 II					

このカリキュラムはあくまで一例となります。  
全体報告会はコースカリキュラム外の内容となります。

### コース代表のコメント

スクールリーダーシップコースは、学校経営の中心となって新しい教育課題の解決に向かう教員を育成するコースです。新しい教育課題は、これまでの経験だけで解決することはできません。確かな理論に基づいた新しい学びが必要です。理論と実践を往還させる講義とともに、参加型授業における院生同士の交流を通して、新しい学びを創り上げていきます。新しい教育課題は、自分一人で解決することはできません。専門性に基づいた協働体制の構築が必要です。学校実習において勤務先等の同僚と協働して、学校改革につながる実践を積み重ねていきます。同級生という対等な立場の仲間として、校種も職階も年齢も異なる教員と机を並べて学ぶことは、かけがえない経験です。視野が広がるのはもちろんのこと、仲間の姿を通して、過去の自分を振り返ることができます。未来の自分を思い描くことができます。この仲間は、大学院修了後も、ともに学び続けることができるかけがえない存在です。ぜひ、スクールリーダーシップコースの仲間に加わってください。素敵な仲間とともに、明日の教育、明日の学校、明日の自分を創っていきましょう。



佐々木 靖 教授

多様な子どもたちのニーズへ協働的にアプローチする

## 援助ニーズ教育実践コース

### 概要

援助ニーズ教育実践コースは、一人ひとりの子どもの援助ニーズをくみ取り、それに応えるための教育実践を展開するコースです。教育学や心理学、福祉・医療、特別支援教育、養護教育、就学前教育分野を通して幼児児童生徒一人ひとりの中に複合的に存在する援助ニーズへの対応力を身に付け、子どもに笑顔と前向きな気持ちが生まれるよう、協働的な援助ができる教員になるために必要なことを学べます。

### 履修モデル

(参考) 令和5年度のカリキュラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1年次	教育課程編成の今日的課題 生徒指導と教育相談の実践的課題 学校経営と学級経営の理論と実践				学習指導の実践的展開 教育研究方法演習 カリキュラム・マネジメントの理論と実践									
	子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践				外国にルーツのある子どもの教育 II									
	援助の理論と協働的援助 児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ				保護者との協働的援助									
2年次	基本学校実習 I				コースRM				基本学校実習 II				コースRM	
	学校安全と危機管理				教師力・学校力・スクールコンプライアンス								全体報告会	
	共生社会をめざした協働的援助 メンタルヘルス課題の理解				社会的包摂のための諸施設に関する実践的探究									
	発展課題実習 I				コースRM				発展課題実習 II					コースRM
	実践課題研究 I								実践課題研究 II					

このカリキュラムはあくまで一例となります。  
全体報告会はコースカリキュラム外の内容となります。

### コース代表のコメント

援助ニーズ教育実践コースは子ども一人ひとりの援助ニーズをくみ取り、それに応えるための教育実践について学んでいくコースです。昨今、子どもを取り巻く環境、子どもの抱える課題は多様化しています。子どもの自立と成長を支援するために、教員は自らの専門性を高めると共に、学校内外の多様な専門性を持つ方々と連携・協働することが求められています。本コースでは、幼稚園・こども園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教諭や養護教諭の免許を有する皆さんが、様々な立場や視点を持ちながら教育課題の解決に向けて学んでいます。授業では「援助ニーズに応える教育実践」について多彩なアプローチから学びを深め、様々な校種や立場の現職教員と学部卒の皆さんがお互いの立場や視点の違いからの気づきを実践における連携・協働に活かそうと取り組んでいます。修了生は教職大学院で学ばれたことをもとに、学校園等の課題の解決に向けて、活躍されています。皆さんも様々な学問領域の知見を融合させ、実践を振り返り、「現在と未来を生きる子どもたちの援助ニーズに応える教育実践とは何か」という重要なテーマをともに考えてみませんか。



柿 慶子 特任教授

教科横断的な視野を持った高度な教科指導力を育成

## 教育実践力コース

### 概要

教育実践力コースは、教育現場の実情に応じた教材研究、指導法の開発、授業改善、今日的な教育課題に対応した方策を自身のテーマとして持ち、理論と実践を踏まえて検討することに重点をおいて学ぶコースです。

それぞれの理想の教員像をめざしながら、教育現場から求められ、教育課題の解決を図ることができる教員になるために必要なことを学べます。

### 履修モデル

(参考) 令和5年度のカリキュラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	生徒指導と教育相談の実践的課題 学校経営と学級経営の理論と実践 教育課程編成の今日的課題(★) 学習指導の実践的展開				教材・題材開発研究 [コミュニケーション・コンピテンシー]		総合的学習の開発と実践		教育研究方法演習(★) カリキュラムマネジメントの理論と実践(★) 教育評価の理論と実践			
	教育実践の研究方法		教材・題材開発研究[道徳a]									
		基本学校実習Ⅰ					基本学校実習Ⅱ				コースRM	
2年次	学校安全と危機管理(★) 協働的プロジェクト演習(★)						カリキュラム・マネジメントの展開(★)		教師力と学校力・スクールコンプライアンス(★)			
			外国にルーツのある子どもの教育Ⅲ									全体報告会
			発展課題実習Ⅰ				発展課題実習Ⅱ				コースRM	
			実践課題研究Ⅰ(※)				実践課題研究Ⅱ(※)					
			人権教育の課題と実践									

※マークは令和6年度入学生から履修時期に変更があります。  
★マークは令和6年度入学生のカリキュラムとは異なる科目名となります。  
外枠のない科目は選択科目です。あくまで一例となります。教育実践力コースでは多くの科目を提供しております。  
●マークのコースRMは実習科目内の内容となります。  
全体報告会はコースカリキュラム外の内容となります。

### コース代表のコメント

教育実践力コースでは、学校教育現場の実情に応じた教材研究、指導法の開発、授業改善、今日的な教育課題に対応した方策を自身のテーマとして掲げ、理論と実践を往還した学びを行うことができます。

現在、学校現場が抱える課題は多様化・複雑化しています。様々な課題に対応するために、幅広い知識を持ち、柔軟に対応できる実践的指導力をもった教員になることをめざします。

学びの中核にあるのは、問題解決のプロセスを踏まえた探求活動と省察です。教職大学院では、講義において教科横断的な研究手法や専門的知見を深め、学校実習では自らのテーマを探求し、様々な専門的知見をもった教員や院生との交流を通して自身の視野を広げることができます。

学校実習では、理論と対峙にはいかないことや目の前の児童・生徒に合わせてこれまでの知見を転換させることがあるでしょう。その際に、教育実践力コースの魅力の1つである校種や各専門領域を大切にしながらも、同時に教科横断的な視点や校種を超えた学びを通して得られる多角的な視点で自らの教師力を磨いてください。

教職大学院で、様々な学問領域の知識【理論】と教育現場での実習【実践】の経験を自身の中で統合させ、自らを省察できる「学び続ける教師」になることを期待しています。学校教育の未来と一緒に考えていきませんか。



田中 真秀 准教授

障がいのある子ども一人ひとりに対応した支援を

## 特別支援教育コース

### 概要

特別支援教育コースは、学校での実習を通して、実際の教育現場というフィールドを大切に、障がいのある子ども一人ひとりの実態やニーズの把握に必要な洞察力と、それらに基づいて授業を展開できる実践力を磨いていくことを目標に学ぶコースです。

インクルーシブ教育システムの観点から、特別支援学校、幼稚園、小・中・高等学校での特別なニーズのある子どもを理解し支援することができる教員になるために必要なことを学べます。

### 履修モデル

(参考) 令和5年度のカリキュラム

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	生徒指導と教育相談の実践的課題 学校経営と学級経営の理論と実践 教育課程編成の今日的課題(★) 学習指導の実践的展開								教育研究方法演習(★) カリキュラムマネジメントの理論と実践(★)			
	インクルーシブ教育の理論と実践								特別支援教育の教育課程と授業論 特別ニーズのある子どもの心理的理解と支援			
			特別支援教育の現代的課題						インクルーシブ教育の理論と実際 特別支援教育コーディネーター論			
			基本学校実習Ⅲ(特別支援)		コースRM							
2年次	学校安全と危機管理(★)								教育相談支援の理論と実際			
									特別ニーズのある子どもの臨床			
									教師力と学校力・スクールコンプライアンス(★)			
									発達支援教育実践論			
												全体報告会

※マークは令和6年度入学生から履修時期に変更があります。  
★マークは令和6年度入学生のカリキュラムとは異なる科目名となります。  
外枠のない科目は選択科目です。あくまで一例となります。  
全体報告会はコースカリキュラム外の内容となります。

### コース代表のコメント

特別支援教育コースでは、学校での実習を通して、実際の教育現場というフィールドを大切に、障がいのある子ども一人ひとりの実態やニーズの把握に必要な洞察力と、それらに基づいて授業を展開できる実践力を磨いていくことを目標にしています。

また、本コースには、視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱・身体虚弱、発達障がいといった各領域における高い専門性をもつ教員が在籍しています。多様な講義や教員との対話を通して、現在の特別支援教育の課題や各障がいについての理解を深め、また、教材の開発や授業改善についても学びを深めることができます。

近年、インクルーシブ教育推進の重要性が一層増しています。特別支援教育コーディネーターの役割重視、授業のユニバーサルデザイン化が求められていることなどからもわかるように、特別支援教育に携わる教員は、特別支援学校あるいは特別支援学級における教育実践を深めると同時に、通常の学校、通常の学級における教育への視点を養う必要性もあります。特別支援学校をはじめとして、特別支援学級や通常の学級など、様々な教育の場において、障がいのある子ども一人ひとりが輝く教育をめざして、一緒に学びを深めてみませんか。



正井 隆晶 特任准教授

## 院生共通

### オンライン授業科目の拡充

院生が学びやすい環境を整えるため、学校実習科目を除くすべての授業科目について、オンライン対応を進めています。

### 令和6年度より3コースを2つのキャンパスで展開

援助ニーズ教育実践コース、教育実践力コース、特別支援教育コースを柏原、天王寺の両キャンパスにも設置します。学部卒院生はよりスムーズに学部と接続ができ、現職教員院生は多様な育成段階の教員が共に学びやすくなります。

### 仲間と出会える

連合教職大学院には、指導主事や現職教員もいれば、学部卒院生もいます。学校間、校種間、教科間、更には世代を超えた院生同士の多種多様なつながりが生まれます。そのつながりは、校種間連携や教科横断的な視野を広げるだけにとどまらず、在学時はもちろん、修了後においても、お互いを支え合い、学び続ける仲間となります。

### 課題解決能力が身につく

理論と実践の往還・融合を通して、調査・協働・俯瞰的な視点・分析等、課題を解決する力が身につきます。

### 専修免許状を取得できる

連合教職大学院では、幼・小・中・高・養護・特別支援（視・聴・知・肢・病）の専修免許状を取得することができます。取得のためには、①取得しようとする専修免許状にかかる一種免許状を有していること、②取得しようとする免許状の課程認定を受けた授業科目を24単位以上修得すること、の2つの条件を満たす必要があります。なお、専修免許状を取得すれば、自治体によっては給与に反映することもあります。

### 教職修士(専門職)の学位を取得できる

連合教職大学院に2年以上在籍（長期履修制度を利用した場合は3年）し、所定の科目を46単位以上修得のうえ修了することで、教職修士（専門職）の学位を取得することができます。

### 2年間で300時間以上の学校実習

学校現場での体系的かつ長期の実践経験を、子ども達と関わりながら積み上げることができます。学部卒院生は、学部段階での教育実習とは異なり、授業の実施だけでなく、学級経営、生徒指導、教育課程編成をはじめ、学校の教育活動全体について総合的に体験し、考察することができます。現職教員院生は、授業で学んだ理論を勤務校における組織的かつ長期的な実習を通して検証することが可能です。

### 学校心理士の資格認定審査に申請が可能

令和2年度より、学校心理士の申請類型に、教職大学院類型が加わり、教職大学院修了者及び修了見込み者の方も学校心理士の資格認定審査に申請することが可能となりました。詳細は、学校心理士認定運営機構のウェブページをご確認ください。

# 大阪教育大学連合 教職大学院の魅力

## 現職教員院生

### 自らの経験に確かな理論を

これまでの教職経験で培った実践的知見と教職大学院での先進的な教育研究に基づく理論的な知見とを統合させることで、理論に裏付けられた教育実践力を身につけることができます。これにより、自らの実践の優れた点については確かな根拠を持ってより一層伸ばしていくことが可能となり、また課題点についても理論に基づいて具体的に改善していくことが可能となります。

### 学んだことをすぐ活かせる

協働的な学び、ICTを活用した授業、生徒指導など、教職大学院での学びをすぐ自身の授業や指導に活かすことができます。先進的な研究や理論に基づく教育実践を学校現場で展開していくことによって、幼児・児童・生徒のより一層の成長に繋げることができます。

### 勤務しながら学べる

とりわけ天王寺キャンパスは交通アクセスがよいため、大阪府外から通っている大学院生が多数います。なお、2年で修了するのが困難な方を対象とした長期履修学生制度を活用し、3年かけて学ぶことが可能です。

### 勤務校等が抱える課題解決に挑む

勤務校等の教育課題等を踏まえた実践課題研究テーマを設定し、教職大学院での2年間の学びの中で、同僚との協働や、大学教員が勤務校等を訪問しての助言・指導等、学校・院生・大学教員のチームで、勤務校等が抱える教育課題の解決に挑みます。

### 実務経験により学校実習科目が一部免除

勤務経験3年以上の現職教員院生は、定められた手続きにより履修免除を願い出て、認められた場合は、1年次前期に行われる「基本学校実習I」の履修が免除されます。

## 学部卒院生

### 教職に関してより深く勉強できる

連合教職大学院では、その名の通り、教職に関する科目を多数用意しています。学部卒（特に教育学部でない学部）の方は、深い教職専門性を培うことができます。

### 教員採用試験が一部免除に

自治体によっては、教職大学院生に対して教員採用試験における試験の一部免除や、教職大学院卒としての学内推薦の制度を利用することができます。

### 教員採用試験の支援

試験対策の一環として、筆記試験だけでなく、集団討論・面接、模擬授業・場面指導等の対策講座を実施しています。

### 名簿登載期間の延長措置が可能

自治体によっては、入学前及び在学中に教員採用試験に合格した場合、申請手続きを行うことで、名簿登載期間の延長措置が可能です。  
※名簿登載期間の延長がない自治体でも、採用試験の一部免除が可能な場合があります。

### 1年を通じて学校現場と関われる

学校実習の一環として、児童生徒等や教職員と交流し、実習先の様々な教育活動及びその補助に携わることで、子どもの変化や成長の様子を長期的に捉えることや、組織の同僚との協調性を身に付けること等をねらいとしています。学部での教育実習では体験できない学びと言えます。

### 仲間と切磋琢磨できる

グループでの学習や討論、実習の振り返りに利用できる協働学習室を備え、様々な学習の形に対応しています。

私は、教師としての力量をより高めるために教職大学院への進学を決意しました。

学部生の時からスクールサポーターをしていて、指導方法次第で子どもたちの顔が明るく楽しそうに変わるということを知りました。しかし、自分自身が子どもたちの顔を輝かせられるような先生になれる自信がないことに気が付いたことが進学を決めた理由です。

教職大学院は学部とは比べ物にならないほど、より実践的で深い学びができる環境です。その事は授業や学校実習から実感できます。授業では、現職教員院生の方とグループワークをしながら学ぶため、様々な校種の先生の生の意見を聞くことができ、多様な考え方や視点を身に付けることができます。学校実習では、学部時代の教育実習とは違い、受け身ではなく主体的に実習することになり、授業で学んだ理論を実習で実践することができるため、より深い学びになります。

私はずっと、教師になることに対し漠然と不安を感じていましたが、今では話を聞いてくださる現職の教員の方々との繋がりができました。また、授業と実習で教師としての力量を高められている自信があるため、これから教師として働くことを楽しみだと思えるようになってきました。私と同じように、「このまま現場に出て大丈夫なのか」と思っている方がいれば是非、教職大学院への進学を考えてみてほしいです。



援助ニーズ教育実践力コース(M2)  
大阪教育大学出身  
在学院生

中村 怜香 さん

私は、学部生時の実習を通して学校現場で必要な経験や技能を教職大学院で獲得し、高めることができると知り、入学を決めました。

学部では体育の先生になるための基礎的な知識や技能を学びました。そして現在、教職大学院では他教科の先生をめざす仲間たちと「授業がどうすれば面白くなるのか」「子供にとって通いやすい学校づくりとは」など、様々なことについて討論などを通して深め合っています。私自身、はじめは同じ学科の友人がおらず不安でしたが、学びたいという気持ちを持って、毎日挑むことにより、勉強や実習で困ったことを助け合うことのできる友人もでき、充実した生活を送ることができています。自分の成長と仲間と協力することの大切さを実感できています。

教職大学院を選んだ理由は、学びながら現場で経験でき、学んだことを実践できるということです。現場を経験された先生や研究を長年続けていらっしゃる先生方から得られる知識は、今後の教員人生で必ず役に立つものばかりで私は学んでよかったと思っています。

この2年間を通して、子どもの将来やりたい道へ自信をもって導いてあげることができるための能力を獲得することが目標です。

もし、「まだ学びたい!」「進学するか迷っている」という方はぜひ教職大学院に来てください!たくさんの先生方のサポートと先輩である私たちが協力して充実した学生生活にしましょう!



教育実践力コース(M2)  
大阪教育大学出身  
在学院生

安部 巴稀 さん

私は学部生時に物理学を専攻し、その専門性を高めるとともに、理科のより深い魅力に触れてきました。専門性を極めた一方、教職に対する自信がなく、「今の私は教師として子どもたちを教育することができるのか」という大きな不安があり、大学院への進学を決めました。

教職大学院では、たくさんの情報や価値観に触れることができます。普段の授業や研究から教育の最先端に触れたり、学校実習で学校の一員として子どもと接しながら様々な先生方の授業を見たり、いろいろな学校に見学に行き、学校の特色や地域性を見ることが出来ます。この1年間で視野が大変広がりました。自分が学びたいたくさんの事に出会い、将来、教員として働くことが楽しみになりました。

また、日々の授業や研究を通し、私が子どもの時に経験した授業と、今の子どもたちに合った授業に大きな違いを感じ、私の「いい授業」の概念が大きく変わりました。

私が現場に出たら、教職大学院で得た、広い視野や教育の場での研究方法を知っていることそのものが、これからの教師として私の強い武器になると思っています。



教育実践力コース(M2)  
近畿大学出身  
在学院生

井原 理紗子 さん

私は、中学校にて1年間の常勤講師を経験する中で、「生徒が主体的に音楽の授業に取り組むにはどうすればよいだろう」と日々悩んでおり、「自身の授業を改善したい」「音楽教育についてより深く学びたい」という思いから、入学を決意しました。

教職大学院では、講義を通して多くの理論を学び、学校実習を通してさまざまな授業実践を行いながら研究を進めることができます。

授業づくりや生徒との関わり方について悩んだ際は、いつも指導教員や実習先の先生に相談することができ、大変心強く、自身の課題を解決することができました。また、専門教科の異なる院生との交流を通して、自分にはない新しい視点から教育についての考えを深めることができました。

心から尊敬できる先生方や、切磋琢磨できる仲間に出会えたことは、私にとって誇りであり、大学院を修了した今もつながりを持ち続け、日々良い刺激を受けています。さらに、教職大学院は教員採用試験対策も充実しており、面接や模擬授業についてたくさんご指導いただき、夢であった高校音楽の教員採用試験に無事合格することができました。現在は大阪府の高校で毎日楽しく授業づくりに励んでいます。

教職大学院での出会い、経験、学びは一生の宝物です。みなさんも、ぜひ教職大学院で最高の学びを経験してください!



令和3年度修了  
教育実践力コース(修了)  
武庫川女子大学出身  
大阪府立福泉高等学校

北村 優佳 さん

## 在学院生・修了生からのメッセージ

私は義務教育学校の特別支援学級を担当しています。勤務していく中で、特別支援学級の子どもたちが楽しく、安全・安心で充実した学校生活を過ごすためには、学校全体の協力が非常に重要であることに気づきました。そのため、今までは研修などを通して独学で学んできましたが、さらに教職大学院で深く学びたいと考えました。そんな時、勤務校の校長から紹介があり、入学を決めました。教職大学院では、幅広く専門的な学びやスキルを学ぶことができ、日々新しい発見や気づきがあります。そして、それらは学校現場での指導や支援に活用でき、「理論と実践」が体現できます。

また、教職大学院生同士の交流も魅力の一つです。教職大学院生には、現職教員やストレートマスターの学生がおり、それぞれ所属や校種や教科、職位などさまざまです。そのため、1つの課題に対しても、多面的・多角的な考え方で意見交流でき、刺激の多いものになっています。教職大学院は、学びや刺激の多い、2年間です!少しでも興味や関心があれば、チャレンジしてください!



スクールリーダーシップコース(M2)  
びわこ成蹊スポーツ大学・  
立命館大学大学院出身  
在学院生  
大阪市立義務教育学校生野未来学園

河村 隆史 さん

「教職大学院で学びたい」その夢は教員になった頃から持ち続けていました。しかし、まずは現場で力をつけようと思い、学級担任や校務分掌の仕事に一生懸命取り組みました。「目の前の子どものために」「共に働く教職員のために」との思いで現場に立ち続ける一方で、その忙しさからその夢は遠のいていきました。教職大学院への道を諦めかけていた時、転勤先で修了生の教員と出会いました。「自分に与えられた仕事」と「これからの自分」について悩み始めた私にはその先輩の話はとても響き、「行くなら今だ!」と教職15年目で入学を決意しました。

教職大学院での学びは決して楽なものではありません。仕事が終わってからの学びは体力的にも大変です。家族や所属学校の理解・協力なしでは成り立ちません。しかし、そこまでしても教職大学院に来て学ぶ価値があると私は思います。自分が学びたかった知識や普段なら関わることのない異校種の先生方との話し合いなど毎時間が刺激の連続です。そして、ここにいる教授・院生の全員が「子どものため」「教職員のため」と真剣に話します。教育現場では理想や夢と流されそうな話でも、真剣に聞き応えてくれます。きっとここで学ぶ人が増え、教育現場で活躍したとき未来の教育は変わると思います。その第1歩を一緒に踏み出しませんか。みなさんをキャンパスで待っています。



スクールリーダーシップコース(M2)  
創価大学出身  
在学院生  
大阪市立天王寺小学校

田坂 圭祐 さん

私は、目の前にいる子どもたちにとって、より適した関わり方を知りたいと思い、教職大学院への入学を希望しました。

教職大学院では、研究者教員の先生と実務家教員の先生が2人で一つの講義を担当している授業もたくさんあり、理論だけの学びや現場の経験だけの学びにならず、理論と実践の双方を学ぶことができました。教職大学院の学びを生かして実践を行うことで、子どもたちのよりよい行動が増えたり、学力が向上したりするなど、子どもたちの変容もありました。現在は、教職大学院に通っていた時に勤務していた学校から転勤し、新たな学校に勤務していますが、教職大学院での学びを生かして実践しています。

また、院生の皆さんも教職の現場で勤務しながら大学院に通っているのので、講義の内容に対する話だけでなく、日々の指導に関する悩みや課題、それぞれの勤務校での実践についても相談したり話し合ったりすることができました。いろいろな校種で勤務している院生と話し合うことで視野を広げることができました。

自分だけでは捉えることができない視点で考えるきっかけを与えてくれる教職大学院で学ぶことは、とても有意義なことになるはずです。



令和3年度修了  
スクールリーダーシップコース(修了)  
ブル学院大学出身  
大阪市立長橋小学校

岡本 紗奈 さん

私は、学部生時に特別支援教育について学び、専門知識や技術の蓄積に伴って、自分の学びたい「障がい」についてさらに理解を深めたいという気持ちが強くなりました。同時に、現状のまま現場に出ることへの不安を感じました。そこで、より学びを深めながら、専門性の向上を図るため教職大学院への進学を決めました。

教職大学院の授業では、特別支援教育を中心に様々な課題や障がい理解について、各障がい領域に専門性を持つ教員と院生同士の対話を通して学んでいます。また、校種・専門教科の異なる院生や現職教員の院生との交流を通して新たな視点に気づき、現場と結び付けた意見や経験による考えから多くのことを学ぶことができます。

学校実習では特別支援学校において、授業参加、教員や子どもたちとの関わりを通して一人ひとりの実態やニーズの把握等に必要なる力を身に付け、授業の実践力を磨きながら研究に取り組んでいます。

教職大学院での学びは、新たな学びと出会いを生み出し、この環境だからこそできる経験があります。さらなる高みへの一歩を踏み出す選択肢の一つに思ってもらえればと思います。



特別支援教育コース(M2)  
関西福祉科学大学出身  
在学院生

浪岡 菜里 さん

# 教職大学院生の一日

## 援助ニーズ教育実践コース

	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	
授業曜日(勤務日)	登校指導	授業とその準備、事務業務、生徒との時間				給食指導	授業とその準備、担任業務	清掃指導	クラス学活	委員会及び部活動指導	移動	6限 授業 18:00~19:30	7限 授業 19:40~21:10		
実習日	実習開始 8:00												実習終了 17:30		
休日		部活動指導				課題に取り組む									

### 学修課題

## 学習面から支援する 不登校予防策の提案

### —中学生の数学に対する 意識変容を目指した 結び目の授業—

援助ニーズ教育実践コース2回生

### 浦瀬 奈都さんの場合

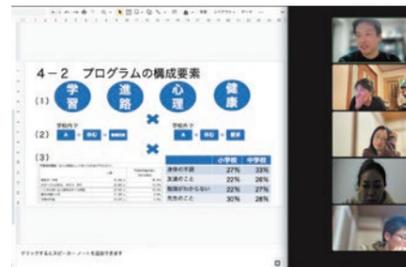
現職教員院生(柏原市立柏原中学校)



※令和4年度作成記事です。

日中は中学生の担任として、担当数学の授業や休み時間の生徒との会話を楽しみ、放課後は委員会や部活動などの子どもたちの主体的な活動を支えながら、仕事をしています。業務量は変わりませんが、大学院に通うようになってからは、これまで何気なく行っていた業務の中に、大学院で学んだ理論が結びつき、その結果、子どもに提供される教育の質を上げることに繋がっています。例えば、授業準備では、大学院で学ぶ「学習指導の実践的展開」に、新しい授業を考案し挑戦するための時間が設けられていて、これまでの自身の授業を見直す良い機会となりつつも、明日の実践に活かせる内容を得られるので、大学院で学ぶ理論と学校現場での実践を常に意識し試すことができます。他には、本校の教育課程重点目標である「今・10年後の社会をより良く生きるための力を育成する」に向けては、大学院で学ぶ「教育課程編成の今日的課題」や「カリキュラム・マネジメントの理論と実践」の内容が手掛かりとなり、新しい総合の授業の考案に活かされています。何より援助ニーズ教育では、子どもが抱える多様な課題についてたくさんの授業が準備されていて、子どものアセスメント方法などを理論と実践を交えて習得することができます。子どもだけではなく保護者のニーズにも視点に向け、家庭も包括した指導の在り方を考え、学校・家庭・社会が連携する実践について勉強することができ、目の前にいる子どもたちに還元できる内容がたくさん準備されています。授業を受けながら、勤務校に在籍する子どもの課題に対する解決の糸口が見えることもあり、実践を勤務校で行っています。

授業ごとに課題が準備されています。課題は、働きながら大学院に通っている現職の私たちのことを考慮してくれた内容となっています。夏休みや冬休みの長期休業日にはレポート課題や、グループでの教材づくりなどの課題があります。私は、土曜の午前中に部活動指導を終えて、午後から図書館等を使って取り組む時もありました。図書館も教育関係の本が充実しているので、レポート作成のための勉強も苦勞しません。また、グループでの取り組み課題については、zoomなどを活用して行いました。オンラインでの打ち合わせは移動時間を気にすることがないので、家事の合間に行うことができます。院生同士で協力し取り組む経験もまた、新鮮で学びが多くあります。



夜の大学院は何とも言えない趣があり、1日の業務を終えて疲れていても、校舎から見えるあべのハルカスの美しさに、少しだけ特別な気分になります。

授業は、「対面授業」と「オンライン授業」のどちらも行われました。オンライン授業を学生側で経験することが無かったため、ブレイクアウトルームやホワイトボードなど、どれも新鮮で、授業を行う側になったときの参考になります。

どの授業も必ず理論に沿って展開されていきます。授業を担当される先生方は日頃から学校現場に足を運ばれているようで、現場のことをよく理解されています。そのため、臨場感ある実践を例にしながら理論が説明されるので、現職教員の私たちにとっても納得できるものとなっています。日常的に発生する現場での課題にも、この理論を当てはめて考察する時間があるので、明日にでも現場で活かせる授業を受けています。

また、研究の方法や手順についての授業もしっかりあります。例えば、「教育研究方法演習」では研究者教員の先生から、質的研究と量的研究を学びます。繊細な分析方法に苦勞する時間ではありましたが、大学院だからこそ学べる「研究の方法」を得ることができ、根拠を持った教育研究を進める基礎を身に付けることができます。

そして授業中や休み時間の院生同士の会話は何より楽しい時間となっています。教育に対して同じような向上心を持った人たちが集まっているので、前向きな会話に心が弾みます。幼稚園から高等学校、特別支援学校、各市教育委員会など校種も様々に集まっているので、普段は一緒に働くことのない人たちと夜の大学院で過ごす時間はとても有意義なものとなっています。



## 時間割例

※令和4年度入学生の場合

### 授業時間

6限	18:00~19:30
7限	19:40~21:10

### 前期

曜日	6限	7限
月		教育課程編成の今日的課題
火	子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践	生徒指導と教育相談の実践
水	児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ	学校経営と学級経営の理論と実践
木		協働的援助の理論と実践
金		指導教員による指導(個別RM)

### 後期

曜日	6限	7限
月	社会環境と子どもの心身の理解	学習指導の実践的展開
火		教育研究方法演習
水		カリキュラム・マネジメントの理論と実践
木	予防的な関わりと協働的援助	いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ
金		指導教員による指導(個別RM)

### 集中講義

障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ

### 前期

曜日	6限	7限
月		学校安全と危機管理
火		共生社会をめざした協働的援助
水		メンタルヘルス課題の理解
木		
金		指導教員による指導(個別RM)

### 後期

曜日	6限	7限
月		教師力・学校力・スクールコンプライアンス
火		社会的包摂のための諸施設に関する実践的探究
水		
木		
金		指導教員による指導(個別RM)

### 集中講義

エビデンスベースの学校改革 実践課題研究 I、II

科目区分		修了要件に必要な単位数	本例における取得単位数
		研究科	必修
共通科目	必修	2	2
	選択必修	2	2
学校実習科目		10	10
コース科目	必修	4	4
	選択必修	6	6
自由選択科目		4	4
課題研究科目		4	4
計		46	46

※修了要件に必要な単位数は選択したコースにより、若干の違いがあります。※各科目の単位は、発展課題実習I・II(各3単位)を除き、1科目2単位。

上記の時間割モデルは令和4年度入学生用カリキュラムによる一例であり、入学後にこのような時間割になることを約束するものではありません。

# 教職大学院生の一日

## 教育実践力コース



### 学修課題

### 学習意欲と理解度を向上させる 動画教材の検討

—視覚を刺激するICT教材の開発—

教育実践力コース2回生

#### 木村 圭太さんの場合

学部卒院生(関西大学文学部令和4.3卒)



第2・3タームでは、週に2回学校実習があります。私は大阪市立天王寺中学校で実習を行っています。火曜日・金曜日が基本的な実習日とされていますが、実習校や指導教員と相談の上、各自で設定することができ、私は月曜日・火曜日を実習日としていました。実習期間内に合計60時間の実習になるように、実習のスケジュールを組む必要があります。

第2タームでは主に授業見学を通して、実習校で行われている授業や生活指導の動向に着目し、実習生としてではなく組織の一員として行動できるよう努力しました。実習では授業以外にも、先生方の会議の場である学年会や部会など、教育実習では体験できなかった活動にも参加させていただきました。第3タームでは、授業の一部を担当させてもらえるようになり、さまざまな目論見を持って授業に挑むなかで、生徒の様々な反応が課題研究を進めていく上で貴重な財産になっています。

この授業では、教師として授業を行う上で習得すべき多様な授業の実践的手法について学習することができます。また、それらの手法をグループごとに課題として設定し、問題の解決を図る中で、自身の研究課題や授業実践へと繋げます。

同じ専門科目の院生同士で話し合う時間もあれば、専門の異なる院生と話し合う時間も十分にあるため、専門が違うからこそ得られる発想にとっても刺激を受けます。また、50人ほどの院生を前に模擬授業をすることもできます。私はこの模擬授業を行ったことで、自身の授業に対する自信が芽生えた共に、今後の学習を通して改善すべき点を発見することができました。

実習開始前の授業ということもあり、授業実践のポイントや実習中に意識すべき事柄を学ぶことができます。専門の先生方から得られた学びは大変貴重で、実習が始まってすぐに実践したい内容ばかりでした。

ここでは大学院生が自由に利用できる「協働学習室」について紹介します。ここでは、レポートや教材教具の作成、参考書等の閲覧、講義のグループワーク、自習、雑談などなど、目的に応じて様々な活動ができます。また、設置されているノートパソコンや印刷機、文具、教科書を借りることもでき、院生が日々生活していく中で不自由なく学修できる環境が整っています。

また、教職大学院の先生方も院生の指導に訪れる場所でもあるので、院生同士だけでなく、様々な先生方とも交流することができます。教職大学院の先生方はフレンドリーな方ばかりで、院生活や学習面で困っていることがあれば親身になって話を聞いてくださいます。

私は外部進学で教職大学院に来たため、入学当初は同じ目標を持った仲間と過ごす生活がとても新鮮に感じました。全員が教師になるという目標のもと、協働学習室で多くの院生と交流し、お互いの研究や目標を共有したり、教員採用試験の対策を一緒に行ったりと、切磋琢磨の日々です。協働学習室で多くの院生、先生方と交流し、様々な学びを得ることができています。

### 学校実習のスケジュール【金曜日例】

8:00~	実習開始	11:50~12:40	4限 実習ノートの記入	放課後	実習ノートの記入/ 指導教員との振り返り/ 教材研究/授業検討/部活動見学
8:50~ 9:40	1限 授業観察	12:40~13:05	給食		
9:50~10:40	2限 授業見学・補助	13:05~13:25	昼休み		
10:50~11:40	3限 授業見学・補助	13:25~14:15	5限 英語 授業実践	17:00	実習終了
		14:25~15:15	6限 道德 授業実践		

### 時間割例

※令和4年度入学生の場合

#### 授業時間

1限	8:50~10:20
2限	10:35~12:05
3限	12:55~14:25
4限	14:40~16:10
5限	16:25~17:55

1回生

#### 前期第1ターム(4月~6月上旬)

月	1限	2限	3限	4限	5限	6限
月	教育課程編成の今日的課題	学習指導の実践的展開				
火			子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践	教育実践の研究手法		
水	教育課程編成の今日的課題					
木	学校経営と学級経営の理論と実践		生徒指導と教育相談の実践的課題			
金						

集中講義(夏期間) 外国にルーツにある子どもの教育I

#### 前期第2ターム(6月上旬~8月上旬)

月	1限	2限	3限	4限	5限
月	基本学校実習I(授業のない曜日を利用して、前期60時間以上の実施)				
火					
水					
木	基本学校実習I(授業のない曜日を利用して、前期60時間以上の実施)				
金					

2回生

#### 前期第1ターム(4月~6月上旬)

月	1限	2限	3限	4限	5限
月					
火	発展課題実習I(授業のない曜日を利用して、前期90時間以上の実施)				
水	発展課題実習I(授業のない曜日を利用して、前期90時間以上の実施)				
木	授業研究演習[教育・心理]	人権教育の課題と実践	協働的プロジェクト演習I		
金		学校安全と危機管理	実践課題研究I		

集中講義(夏期間) 外国にルーツにある子どもの教育III

#### 前期第2ターム(6月上旬~8月上旬)

月	1限	2限	3限	4限	5限
月					
火	発展課題実習I(授業のない曜日を利用して、前期90時間以上の実施)				
水	発展課題実習I(授業のない曜日を利用して、前期90時間以上の実施)				
木					
金					実践課題研究I

#### 後期第3ターム(10月~12月上旬)

月	1限	2限	3限	4限	5限
月	基本学校実習II(授業のない曜日を利用して、後期60時間以上の実施)				
火					
水					
木	基本学校実習II(授業のない曜日を利用して、後期60時間以上の実施)				
金					

集中講義(冬季期間) 外国にルーツのある子どもの教育II

#### 後期第4ターム(12月上旬~2月上旬)

月	1限	2限	3限	4限	5限
月			カリキュラムデザイン演習(教育・心理)	教材・教材開発研究(英語コミュニケーション)	
火					
水	教育研究方法演習				
木					
金					

#### 後期第3ターム(10月~12月上旬)

月	1限	2限	3限	4限	5限
月		教材・教材開発研究[心理学]			
火	発展課題実習II(授業のない曜日を利用して、後期90時間以上の実施)				
水	発展課題実習II(授業のない曜日を利用して、後期90時間以上の実施)				
木			カリキュラム・マネジメントの展開		
金					実践課題研究II

#### 後期第4ターム(12月上旬~2月上旬)

月	1限	2限	3限	4限	5限
月					
火					
水	教師力・学校カ・スクールコンプライアンス				
木					
金					実践課題研究II

科目区分	修了要件に必要な単位数	本例における取得単位数	
		必修	選択必修
研究科	必修	16	16
共通科目	選択必修	2	2
学校実習科目		10	10
コース科目	必修	4	4
	選択必修	6	6
自由選択科目		4	4
課題研究科目		4	4
計		46	46

上記の時間割モデルは令和4年度入学生用カリキュラムによる一例であり、入学後にこのような時間割になることを約束するものではありません。

# 授業科目一覧(予定)

教員養成フラッグシップ大学指定による単位の修得方法に関する特例を用いた研究科科目「フラッグシップ大学特例領域科目」を設置し、幅広い学びのニーズに応えます。

## 研究科共通科目

科目区分	授業科目の名称	科目区分	授業科目の名称
教育課程の編成及び実施に関する領域	カリキュラムの編成原理とマネジメント	フラッグシップ大学 特例領域科目	教育におけるDXとSTEAMの理論と実践
教科等の実践的な指導法に関する領域	学習指導の実践的展開		グローバルスタディーズの展開
生徒指導及び教育相談に関する領域	生徒指導と教育相談の実践的課題		多職種協働による組織マネジメント
学級経営及び学校経営に関する領域	学校経営と学級経営の理論と実践		社会的包摂に関する実践的探究
学校教育と教員の在り方に関する領域	学校安全と人権を核にした教師力・学校力の創造		子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践
			外国にルーツのある子どもの教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
		インクルーシブ教育の理論と実践	
		学校安全と危機管理	
		人権教育の課題と実践	
		インクルーシブ教育の実現に向けた子どものアセスメントと支援	
		通常学級におけるインクルーシブ教育の実践	

※授業科目名は、すべて仮称であり変更になる可能性があります。

## 学校実習科目

授業科目の名称			
基本学校実習Ⅰ	基本学校実習Ⅲ(特別支援)	発展課題実習Ⅰ	発展課題実習Ⅲ(特別支援)
基本学校実習Ⅱ	基本学校実習Ⅳ(特別支援)	発展課題実習Ⅱ	発展課題実習Ⅳ(特別支援)

## スクールリーダーシップコース科目

科目区分	授業科目の名称		
コース必修科目	スクールリーダーシップの理論と実践	学校改善のためのアクションリサーチ	学校における人材育成の理論と実践
選択科目	スクールリーダーのマネジメント		学校支援のための施策展開
	学校組織開発		グローバル時代の教師
	チーム学校の実践的展開		グローバルリテラシーの育成
	学校におけるコーディネーション		グローバルプログラムの開発
	子どもの発達を踏まえた生徒指導の組織的展開		授業におけるICT活用の理論と実際
	校内研修の持続的発展		メディア・情報リテラシー教育の実践的展開
	学校に対するコンサルテーション		メディア・情報教育の企画・運営
	行政研修の体系と実践		

## 援助ニーズ教育実践コース科目

科目区分	授業科目の名称		
コース必修科目	援助の理論と協働的援助	保護者との協働的援助	児童生徒の発達と子どもの援助ニーズ
選択科目	いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ		共生社会をめざした協働的援助
	予防的な関わりと協働的援助		就学前の子どもの援助のための政策・システム
	学校危機における援助ニーズ		就学前の援助ニーズへの多様な支援
	障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ		エビデンスベースの学校改革
	メンタルヘルス課題の理解		

## 教育実践力コース科目

科目区分	授業科目の名称		
コース必修科目	教育実践の研究手法	教育評価の理論と実践	探究学習の開発と実践
選択科目	総合的学習の開発と実践		他地域教育実践演習Ⅱ
	特別活動の展開		アクティブラーニングの展開
	道徳教育の教材開発演習		カリキュラムデザイン演習(身体と表現)
	他地域教育実践演習Ⅰ		
	<b>授業研究演習</b>		
	[小学校国語]/[国語/中高]/[小学校英語]/[英語/中高]/[家庭科/中高]/[社会a/中高]/[社会b/中高]/[道徳] [理科/中高]/[技術]/[数学/中高]/[小学校音楽]/[音楽/中高]/[美術/中高]/[書道/中高]/[体育]/[保健体育] [小学校全教科]A/[小学校全教科]B		
<b>教材・題材開発研究</b>			
[国語/小中]/[文章理解]/[言語表現]/[国語/知識及び技能(音読・朗読)]/[国語/知識及び技能(文字表現)] [コミュニケーション・コンピテンシー]/[小学校英語]/[英語/論理・表現]/[英語コミュニケーション]/[タスクベースの英語指導] [英語教育とICT]/[家庭生活と消費]/[食生活と消費]/[衣生活と消費]/[環境と消費]/[いのち教育]/[哲学]/[倫理]/[経済a]/[経済b] [社会学a]/[社会学b]/[歴史]/[地誌]/[地図]/[道徳a]/[道徳b]/[小学校理科 エネルギー・粒子]/[小学校理科 生命・地球] [中・高理科 物理・化学]/[中・高理科 生物・地学]/[技術・木材加工]/[技術・金属加工]/[技術・電気]/[技術・情報]/[技術・栽培] [算数・数学/小中]/[算数・数学/授業分析]/[算数・数学/教科書分析]/[算数・数学/授業開発]/[算数・数学/数学教育研究] [代数]/[幾何]/[解析]/[確率]/[応用数学]/[作曲]/[指揮]/[音楽]/[合唱]/[ピアノ演奏法・伴奏法]/[音楽学]/[音楽美学] [美術鑑賞]/[書鑑賞]/[芸術と異文化交流1]/[芸術と異文化交流2]/[デザイン・映像メディア]/[工芸]/[ものづくり1]/[ものづくり2] [対人・武道]/[武道]/[保体・集団]/[保体・個人]/[保健学習]/[健康・体力]/[保健体育基礎論]/[保健体育実践1]/[保健体育実践2] [心理学]/[教育と想像力]			
<b>高度教科内容研究</b>			
[実験物理]/[化学]/[植物進化]/[動物系統]/[動物発生]/[気象]/[天文]/[地質]/[木材加工]/[金属加工]/[電気] [情報]/[栽培]/[代数]/[解析]/[確率]/[応用数学]			

## 特別支援教育コース科目

科目区分	授業科目の名称		
コース必修科目	特別なニーズのある子どもの心理学的理解と支援	特別支援教育の教育課程と授業論	特別なニーズのある子どもの臨床
選択科目	インクルーシブ教育の理論と実際		特別支援教育の現代的課題
	特別支援教育コーディネーター論		発達支援教育実践論
	特別なニーズのある子どもの生理と病理		教育相談支援の理論と実際
	発達障がいのある子どもの理解と支援		

## 高度教職プログラム

大学院連合教職実践研究科に所属する大学院生が、さまざまな学校現場のニーズ及び教育課題に対応し、課題意識を持ちながら主体的にプログラムを選択し履修することで、学校教員としての高度な資質及び力量を強化することを目的とします。自由選択科目として履修可能です。

プログラム名称	構成科目
インクルーシブ教育プログラム	・インクルーシブ教育の理論と実践 ・インクルーシブ教育の実現に向けた子どものアセスメントと支援 ・通常学級におけるインクルーシブ教育の実践
外国にルーツのある子どもの支援プログラム	・外国にルーツのある子どもの教育Ⅰ ・外国にルーツのある子どもの教育Ⅱ ・外国にルーツのある子どもの教育Ⅲ
生徒指導プログラム	・いじめ・不登校・問題行動を示す子どもの援助ニーズ ・学校危機における援助ニーズ ・予防的な関わりと協働的援助
障がい・健康課題のある子どもへの協働的援助プログラム	・障がいや健康課題のある子どもの援助ニーズ ・メンタルヘルス課題の理解 ・共生社会をめざした協働的援助
特別支援教育プログラム	・インクルーシブ教育の理論と実際 ・特別なニーズのある子どもの生理と病理 ・発達支援教育実践論

## 課題研究科目

授業科目の名称
実践課題研究Ⅰ
実践課題研究Ⅱ

コースカリキュラム  
についての  
詳細はコチラ



## 就職支援



キャリア支援センターによる教員採用試験の充実したサポート体制を整えています。

### Support 1 筆記試験対策講座

筆記試験対策講座を講義形式で実施

### Support 2 面接試験対策講座

面接試験に必要なノウハウ・テクニックを身に付けることが可能

### Support 3 教育委員会による採用説明会

各教育委員会関係者が大学で採用説明会を実施  
試験の詳細や変更点を聞くことが可能

### Support 4 私立学校教員採用説明会

私立学校人事担当者が本学で説明会を実施  
各学校の採用予定や特色を聞くことが可能

### Support 5 実技・面接対策講座

水泳・音楽・器械運動など実技試験、集団討論・面接、模擬授業・場面指導の対策講座を実施

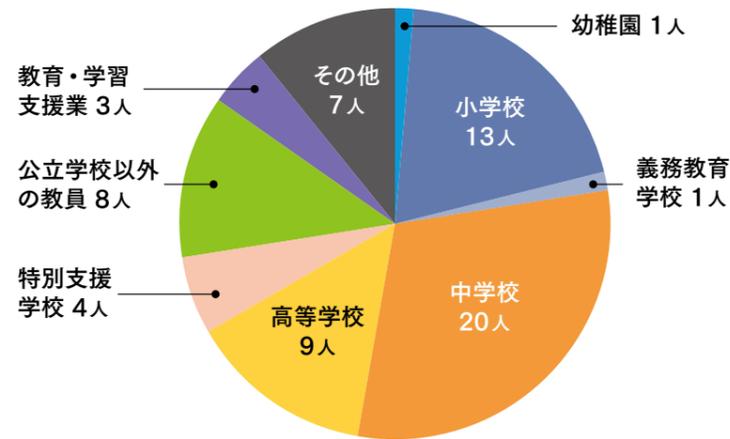
### Support 6 専門アドバイザーによる相談

専門アドバイザーによる教員採用試験相談を実施

## 進路状況

### 令和4年度修了者の就職状況(66人)

※現職教員として在学したものを除く



### 教員採用試験の採用候補者名簿掲載期間の延長について(大阪市・堺市)

大阪市の教員採用試験で校種「小学校」及び「中学校」の第2次選考で合格と判定された人が、教職大学院に進(在)学し、教職大学院の専門職学位課程修了後の採用を希望する場合は、採用候補者名簿掲載期間を最長2年間延長することができます。堺市の教員採用試験でも同様の制度があります。  
※詳細については、大阪市あるいは堺市の教員採用試験の要項をご確認ください。



### Pick Up

#### ◆科目等履修生制度

正規の院生の他に、連合教職大学院の正規の授業を聴講して単位を修得する制度です。1年間に8単位まで履修することができます。教員免許状の取得に必要な科目の履修や特定のテーマについて専門的に学びたい場合にご利用ください。また、本制度により修得した単位は、正規院生として入学した際、既修得単位として認められます。

#### ◆履修証明プログラム

「履修証明プログラム」とは、社会人等の学生以外の者を対象とした教育プログラムで、修了者には学校教育法の規定に基づく履修証明書が交付されます。  
連合教職大学院では、学校現場のニーズや教育課題に対応することを目的として、当研究科が開設する授業科目により履

修証明プログラムを編成・開設しております。  
履修証明プログラムの履修生として入学が許可されると、科目等履修生としての身分を有することになり、修得した単位は科目等履修生として修得したものととして扱います。

#### ◆授業公開

連合教職大学院では、年間を通じて授業を公開しています。連合教職大学院での学びをぜひ一度体験してください。

詳細は連合教職大学院ウェブページにてご確認ください。

## 学費・奨学金



### 入学科・授業料

令和5年度入学	入学科	授業料(年額)
大学院	282,000円	535,800円
大学院(長期履修学生制度の適用者)	282,000円	357,200円

上記金額は、令和5年度入学者の金額であり、令和6年度入学者については、変更される場合があります。

### 長期履修学生制度

標準修業年限(2年)で修了することが困難な方を対象に、修業年限を延長することにより計画的に教育課程を履修することができ、かつ、その間の授業料の年額の負担を軽減することができます。

長期履修学生としての申請に基づき審査を行い、許可された場合修業年限を3年とします。修学状況等の変動により、標準修業年限への短縮や、入学後(在学中)の長期履修の申請も可能ですが、この場合、1年次の所定期日までに申請を行い、翌年度からの適用となります。  
なお、本制度が適用された方は、留学など長期にわたって本学大学院を離れた場所での修学ができない場合があります。

#### 〈申請資格〉

申請資格を有する方は、次のいずれかに該当する方です。

- ① 職業を有する方
- ② 育児、介護等の事情を有する方
- ③ その他研究科長が認めた方

#### 〈授業料(年額)〉

$$\text{大学が定めた授業料年額} \times \text{標準修業年限(2年)} \div \text{最長履修期間(3年)}$$

### 専門実践教育訓練給付金

連合教職大学院では、スクールリーダーシップコースについて、厚生労働大臣より教育訓練給付金制度の専門実践教育訓練講座に指定されています。これにより、支給対象者は所定の手続きを行うことで、専門実践教育訓練給付金(入学金+授業料の半額程度)の支給を受けることができます。

※本制度は、国立・私立学校の現職教員等が対象となる可能性があります。  
※ただし、長期履修制度を利用する場合、専門実践教育訓練給付金の申請はできません。  
※制度の詳細については、厚生労働省のウェブサイトをご確認ください。



### 授業料等免除制度

#### 一般選考

経済的理由により入学科・授業料の納付が困難であり、かつ、成績優秀と認められる方を対象に選考のうえ、入学科・授業料の全額または半額が免除あるいは徴収が猶予されます。

#### 特別入学科免除

本学大学院へ入学する方のうち、公立学校教員採用試験に合格し、かつ教育委員会から採用猶予等を許可された方を対象に選考のうえ、入学科の全額又は半額が免除あるいは徴収が猶予されます。

#### 大学院における特別授業料免除

本学大学院に在学中で、学業成績等が優秀であると認められる方を対象に選考のうえ、授業料の半額が免除あるいは徴収が猶予されます。

### 奨学金制度

学業成績が優秀で、経済的理由により学資の支弁が困難の方には《日本学生支援機構奨学金》または《一般奨学金》の制度があります。一般奨学金には、大きく分けて地方公共団体の奨学金と民間育英団体の奨学金とがあります。

(参考)令和5年度入学者 日本学生支援機構奨学金の貸与月額例

奨学金の種類	貸与月額
第一種奨学金(無利子)	50,000円・88,000円のいずれかより選択
第二種奨学金(有利子)	50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円のいずれかより選択

上記金額は、令和5年度入学者の金額であり、令和6年度入学者については、変更される可能性があります。  
第一種奨学金(無利子)については、「特に優れた業績による返還免除制度」があります。  
また、入学予定者を対象とした「特に優れた業績により返還免除内定制度」があります。



令和6年度入試日程

	出願期間	入試日	合格発表
1次募集	令和5年 7月24日(月)～ 8月7日(月)	令和5年 9月 2日(土)	令和5年 9月 8日(金)
2次募集	令和5年 10月30日(月)～ 11月13日(月)	令和5年 12月10日(日)	令和5年 12月15日(金)
3次募集	令和5年 12月25日(月)～令和6年 1月11日(木)	令和6年 2月11日(日・祝)	令和6年 2月16日(金)

※上記入学試験で定員に満たない場合は4次募集[令和6年3月2日(土)]を実施する場合があります。

選抜方法

【推薦選抜】

入学者推薦選抜では課題レポート、口述試験、学修計画書及び成績証明書を総合して行います。

◎課題レポートの内容については、大学ウェブページで公表しています。

【一般選抜】

入学者一般選抜では、小論文、口述試験、学修計画書及び成績証明書を総合して行います。

入試説明会

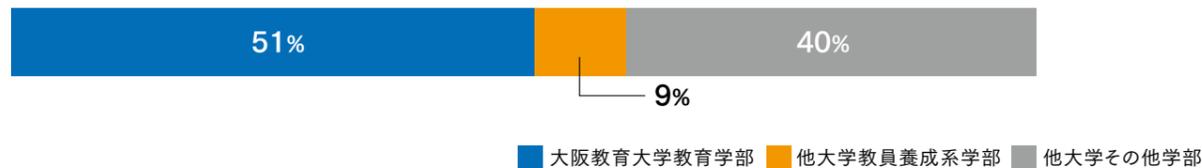
オンラインで全体説明やコース別説明を行います。詳細は大学ウェブページに掲載します。

お気軽に参加ください。

令和5年7月2日(日)、令和5年11月3日(金・祝)、令和5年12月17日(日)

学部卒院生の出身大学・学部(令和2年度～5年度入学者)

入学者の出身大学・学部は、教員養成系大学・学部に限らず、理工学部や文学部、外国語学部など多様です。



三つのポリシー

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与方針)

大学院連合教職実践研究科(連合教職大学院)は、教育委員会や学校現場との密接な連携の下での教員養成や現職教員教育を通じて、教員志望学生や現職教員学生に学校現場での課題に即応できる実践的知識・技能を拡充させるための視点と方法を獲得させ、もって学校における高度の専門的な能力及び優れた資質を有する専門職としての人材の育成を目標としています。

この目標に基づき、所定の単位を修得し、教職に関する実践的知識・技能を拡充するための省察や教育実践研究の方法論、同僚や他の教育関係者との協力や協働、学校における組織的活動の視点と方法を獲得するとともに、学校教育の制度や仕組み、教育課程、授業や教材、子どもの心理や発達と生活及びその多様性等に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に有すると認められた者に教職修士(専門職)の学位を授与します。

カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

大学院連合教職実践研究科の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針を踏まえ、学校教育の全体像を俯瞰できるような幅広い実践力や課題解決力や応用力を培い、教職に関する高度な専門的知識と実践的指導力を統合的に養成することを目的としています。そのため、教育職員免許法を踏まえながら、教員養成フラッグシップ大学として、指定大学が加える科目を設定した上で、次のように教育課程を体系的に編成し、実施するものとします。

- ①高度な専門性を有する教員を養成するための基礎的素養を体系的に修得する研究科共通科目
  - ②変化する教育環境に対応するために、様々な教育のあり方を俯瞰的な視点で把握するための活動を展開する学校実習科目
  - ③自らのキャリアや所属学校園等の組織課題を踏まえ、専門的かつ多面的に学びを進めることを目的としたコース科目
  - ④自ら学校実践の現場における課題を設定し、研究科共通科目、コース科目、学校実習科目での学びと関連させながら学びを進め、最終的に実践課題研究報告書にまとめることを目的とする課題研究科目
- ①及び③の実施については、主体的・対話的で深い学びを提供します。具体的には、講義に加えて、グループワーク、発表、討論等の活動を取り入れます。さらに、必要に応じて、教職経験を活かした活動を導入します。また、成績評価については、試験・レポートのほか、グループワーク、発表、討論等の活動も重視します。
- ②及び④に関しては、調査・計画・実施・評価及び改善のサイクルを繰り返すこと、それらの過程における同僚等とのコミュニケーションや協働を重視します。

アドミッション・ポリシー(入学者受入れ方針)

1. 求める学生像
  - 卒業認定・学位授与の方針に定める資質・能力を育成するために編成された教育課程を履修する学生として次に掲げる人材を広く求めます。
  - ・学校や地域が抱える教育課題の解決において指導的・中核的な役割を果たすために求められる高度で優れた実践力の獲得をめざす現職教員及び教育委員会関係者
  - ・新しい学校づくりの担い手として自ら学び続けることで実践的指導力の獲得をめざす人
2. 入学者選抜の基本方針
  - 大学院連合教職実践研究科が求める学生を受け入れるために、次の大学院入学者選抜を実施します。
  - [推薦選抜]
    - 大学院入学者推薦選抜では、「課題レポート」・「口述試験」・「学修計画書」を課します。
    - ・「課題レポート」では、教職に必要とされる読解力、思考力、文章表現力を特に評価します。
    - ・「口述試験」において
      - 学部卒学生等では、教員として学び続ける意欲、教職に関わる実践的な知識・技法・大学院での学修計画を特に評価します。
      - 現職教員等では、教員として学び続ける意欲を持ち、自らの教員としてのキャリアと学修計画を関連づける思考力、判断力、表現力を特に評価します。
    - ・「学修計画書」において
      - 学部卒学生等では、学部での学修を踏まえ、教員として自らが身につけるべき資質・能力を明確にし、それを学校等における教育課題と関連づけた具体的な学修計画を特に評価します。
      - 現職教員等では、所属する組織の課題を把握し、その解決のために教員として自らが高めるべき資質・能力を明確にしている学修計画を特に評価します。
  - [一般選抜]
    - 大学院入学者一般選抜では、「小論文」・「口述試験」・「学修計画書」を課します。
    - ・「小論文」では、教職に必要とされる読解力、思考力、文章表現力を特に評価します。
    - ・「口述試験」において
      - 学部卒学生等では、教員として学び続ける意欲、教職に関わる実践的な知識・技法・大学院での学修計画を特に評価します。
      - 現職教員等では、教員として学び続ける意欲を持ち、自らの教員としてのキャリアと学修計画を関連づける思考力、判断力、表現力を特に評価します。
    - ・「学修計画書」において
      - 学部卒学生等では、学部での学修を踏まえ、教員として自らが身につけるべき資質・能力を明確にし、それを学校等における教育課題と関連づけた具体的な学修計画を特に評価します。
      - 現職教員等では、所属する組織の課題を把握し、その解決のために教員として自らが高めるべき資質・能力を明確にしている学修計画を特に評価します。
3. 入学前に学習しておくことが期待される内容
  - (学部卒学生等) ・大学卒業レベルと同等の基礎学力
    - ・教職への基本的な知識・技能
  - (現職教員等) ・教育全体や所属する組織の課題を理解し、課題解決をする力
    - ・組織の一員として協働して取り組む力
    - ・子ども一人ひとりを理解し、授業づくり、集団づくりを指導する力

# Access



※このアクセスマップはすべての路線が記載されているものではありません。

## 天王寺キャンパス



## 柏原キャンパス



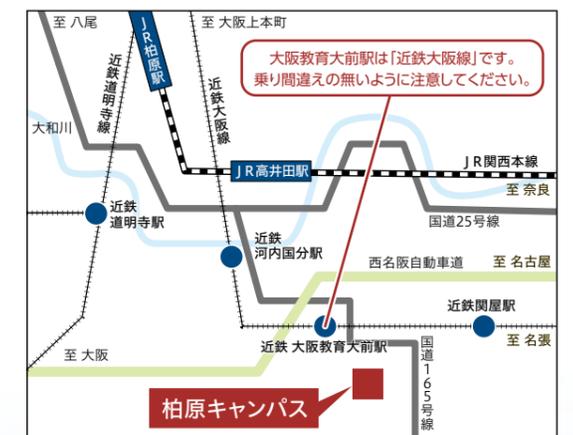
## 柏原キャンパス

※下図では乗り換えに要する時間は記載していません。

新大阪	4分	JR大阪	16分	約15分
大阪方面		JR大阪環状線外回り 京橋・鶴橋方面		徒歩(約1km) 大教大名物のエスカレーターがあります。
三ノ宮	24分	JR大阪	16分	
JR神戸線新快速 大阪方面		JR大阪環状線外回り 京橋・鶴橋方面		
神戸三宮	48分			
		阪神本線快速急行		
JR京都	28分	JR大阪	16分	
JR京都線新快速 大阪・神戸方面		JR大阪環状線外回り 京橋・鶴橋方面		
丹波橋	33分	京橋	7分	
京阪本線特急 淀屋橋方面		JR大阪環状線外回り 鶴橋・天王寺方面		
大阪難波	5分			
		近鉄奈良線 大和西大寺方面		
岸和田	28分	新今宮	8分	
南海線急行 なんば方面		JR大阪環状線内回り 天王寺・鶴橋方面		
関西空港(鉄道)	33分	天王寺	8分	
JR特急はるか		JR大阪環状線内回り 鶴橋・京橋方面		
和歌山	75分	天王寺	8分	
JR直通快速 天王寺行き		JR大阪環状線内回り 鶴橋・京橋方面		
JR奈良	16分	王寺	12分	
JR関西本線 大阪方面		JR関西本線 難波方面		
大和西大寺	22分	柏原	約7分	
近鉄橿原線急行 橿原神宮前方面		徒歩(550m)		
近鉄名古屋	116分	堅下	7分	
近鉄名古屋線特急 大阪難波方面		近鉄大阪線急行 大阪上本町方面		
津	14分	伊勢中川	73分	
近鉄名古屋線 伊勢中川方面		近鉄大阪線快速急行 大阪上本町方面		

大阪上本町駅から  
大阪教育大前駅まで近鉄電車で**23分**

JR大阪環状線鶴橋駅から  
大阪教育大前駅までなら**19分**



## 柏原キャンパス

## 天王寺キャンパス

※下図では乗り換えに要する時間は記載していません。

大阪教育大前	1分	河内国分	17分	鶴橋	4分	約5分
		近鉄大阪線急行		JR大阪環状線外回り 天王寺・弁天町方面		徒歩(約350m)
大阪				20分		
		JR大阪環状線外回り 京橋・鶴橋方面				
京橋				12分		
		JR大阪環状線外回り 鶴橋・天王寺方面				
JR奈良				35分		
		JR大和路快速 大阪方面				
神戸三宮	31分	西九条	16分	約10分		
阪神本線快速急行 近鉄奈良方面		JR大阪環状線内回り 弁天町・天王寺方面		徒歩(約600m)		

大阪市内中心地 天王寺駅から約600m (寺田町駅から350m)



## 天王寺キャンパス





国立大学法人

大阪教育大学

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/>

学務部入試課

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1  
TEL 072-978-3323